

ニューヨーク・NPT再検討会議要請団レポート NO.2

スミソニアン航空宇宙博物館・リンカーンメモリアルパーク

# アメリカは『被爆の真実』を国民に知らせよ

日本共産党広島市会議員 中原ひろみ



被爆者の写真を掲げて行進する(写真左から)村上あつ子、中原ひろみ両市議、辻恒雄県議。

## 「原爆投下は平和をもたらした」の揭示

### 『真実』知らせないアメリカに怒り

スミソニアン博物館に展示された「エノラ・ゲイ」の説明板には「原爆の投下は平和をもたらした」との記述が・・・

原爆で広島がどうなったかの記述はなく、真実を知らせないアメリカに怒りを禁じえず、ヒロシマ・ナガサキからの抗議の声をもっと大きくしたいと強く思いました。



展示されていたジェラルミンの「エノラ・ゲイ」

リンカーンメモリアルパークのそばには、ベトナム戦争で亡くなった多くのアメリカ兵の名前を刻んだ「ベトナム・メモリアル」があります。そこで、出会ったある家族の風景は日本の靖国神社を思い起こさせました。父親が多くの名前の中から一人の兵士の名前を見つけて、「これこれ、あったあった!」と叫びます。身内の名前なのでしょう。娘さんが白い紙を取り出し、刻まれた名前の上に置いて、鉛筆で塗りつぶします。紙に浮かび上がった名前。その紙に書かれてあった言葉は、「ベトナムで勇敢に死んだ英雄」でした。

## 「石油のためにはブッシュも核も必要」の声も

### それでも署名集めたホワイトハウス前

「NO MORE HIROSHIMA」のゼッケンを胸に、ホワイトハウス前で60人で署名行動。ホワイトハウスの屋根には拳銃を持った軍人が立っていて驚きました。建物前の広場では、ヒロシマ・ナガサキの被爆写真を掲示して核廃絶を訴える61歳のルシオットさんという女性に会いました。彼女は1981年からずっと一人で座り込みを続け、その不屈の行動力が市民権を獲得。警察官や警備員は何も言わず無視したまま。彼女の周りには、ホワイトハウス見学客の人だかりができ、彼女の熱意に敬服しました。

署名はなかなかの苦戦。「石油のためにはブッシュは必要、核兵器も必要」という意見もあり、「No thank you」ばかり。「ホワイトハウス前で署名がどんどん集まるようなら核兵器はもう廃絶されているよね」などと、みんなで励ましあいながら修学旅行生たちにも協力してもらい、全体で100筆以上集めることができました。

## 「家族が次々ガンで死亡。国家補償はわずか」

### 印象に残ったネバダ核実験・被害住民の発言

教会でピースアクション主催の交流会に参加。被爆の実相を伝える「原爆写真ポスター」とパンフレットを渡しました。

「家族6人のうち両親と兄弟2人がガンで死亡。妹もガン治療中だが、治療費は年間500万ドル。国からの医療費はわずか50万ドルで、このわずかな補償さえ裁判や議会に働きかけてやっと成立したが、13種類のガンだけしか補償の対象にされない」——ネバダ核実験場の風下地区の住民の発言が印象に残りました。

交流会で再認識したのは、①アメリカの人々はアメリカがしてきたことや何をしているのか真実を知らされていない、②イラクで使用された劣化ウラン弾の怖さを誰も知らされていない、③アメリカは「悪の枢軸」やテロという名の「敵」をつくることで国民を脅し核兵器を正当化している——ということでした。

\*

改めて、『国民に真実を知らせる』ことがいかに大切かを

感じました。日本には、誰にも遠慮せず真実を伝える新聞「赤旗」があります。多くの国民に知らせることが、私にできる最初の一步であり、大きな一步につながると確信しました。



オハイオ州の中学生と「パタパタ鶴」を持って=リンカーンメモリアルパーク

# 「あなた方の訪問は『平和の波』起こした」と 励まされて

日本共産党広島市議員 藤井とし子

## 「多くの日本人の参加にどれほど励まされたか」

### 平和活動家からのメールで知る訪米の意味

今回の訪米で一番確信を持てたのは、「反戦反核の国際世論が大きく広がれば世界を変えることができる」ということです。

アメリカの平和活動家デービッド・マクレノイズさんは、パレードに参加したものの、高齢のため最後まで参加できませんでした。しかし後日、日本原水協あてに、「あれほどたくさんの日本人が参加してくださったことに、平和運動で活動する私たち全員がどれほど励まされたことか、また大切なことかぜひ知ってください」とメールを送って下さいました。

## 驚きと感動で受け止められた「被爆証言」

要請団には多くの被爆者の方が参加され、学校や集会所で被爆の実相を証言し、核兵器廃絶を直接訴えられました。この訴えは、「原爆が戦争を終わらせるために必要だった」と教えられているアメリカの人々にとって、驚きと感動で受け止められました。

被爆の実相を伝え、ヒロシマの願いを直接届けたことは、核保有国に核廃絶を迫る世論を確実に大きくしたと思います。国際世論に背を向け、「新たな核開発」「先制攻撃での核使用」も示唆するブッシュ政権。そのもとでの今回の行動は、アメリカに大きな平和の波を起こしたことでしょう。



パレードで「NO MORE HIROSHIMA」を訴えて

## 「核兵器のない世界を」この一点で理解しあえた

アメリカ人自身が自国を「悪の帝国」と表現する状況のなか、米国と世界の平和運動の連帯で、アメリカを変えていくためにはどうするのか、このことに一番関心を持ちました。

ニューヨーク以外はまだ保守的な考えが強いといいます。市議団は独自に、今回集会を準備した「平和と正義連合」



右から2番目の帽子を被った女性がシルビアさん(82歳)。この町での交流会を準備して下さいました=スプリングフィールドの市役所の前で

の本部への訪問やニュージャージー州の2つの町の平和運動活動家たちと交流しました。

私たちが被爆の実相や日本の状況を伝えたのに対し、どこでも「原爆を落としたことをお詫びしたい」と言われ、「戦争も核兵器もない世界をつくる」の一点で理解しあえました。

## 平和活動家・シルビアさんたちとの出会い

私たちのために交流会を一生懸命企画して下さいました82歳の元教師・シルビアさんと、通訳をして下さったシスターのジーンさんとの出会いは、何といても忘れられません。お二人は、私たちの訪問をとても喜んで下さいました。

シルビアさんは、帰る電車のなかで疲れた様子もなく、「あなた方の訪問はアメリカに平和の波を起こしました」と話されました。彼女自身、各市長に平和宣言をするよう署名運動を進めたり、平和教育の重要性を訴えておられます。その地道な姿に私たちの方こそ励まされました。

\*

日本で小泉政権を変えたいと思うのと同じように、多くのアメリカ人がブッシュ政権を変えなければと頑張っています。この人たちと「戦争も核兵器もない世界をつくるためにお互いがんばろう」と励ましあえたことが、なによりも有意義でした。今回の平和市長会議と4万人の行動は、必ずNPT再検討会議に前向きな影響を与えると確信しています。